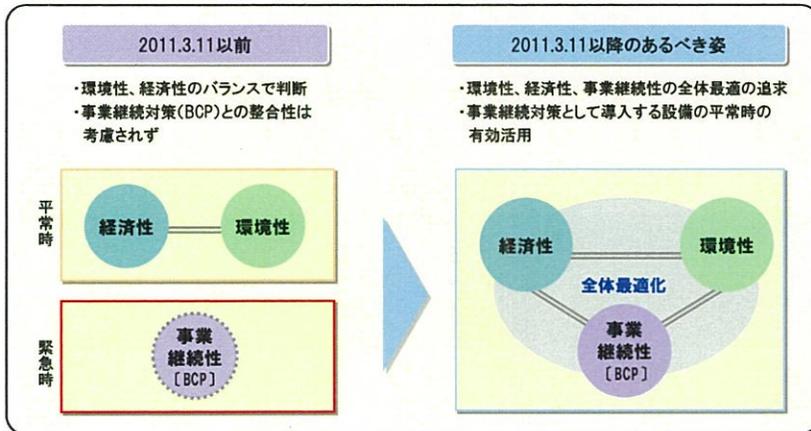


2011.311東日本大震災以降の戦略の基本潮流

■2011.3.11以降のお客様の「エネルギー戦略」の枠組みの変化



(ご参考)仙台の宮城県立子ども病院

14:46 東日本大震災発生
36万戸内の7万戸を供給停止

15:53 港工場に大津波襲来
都市ガスの全面停止
非常用防災兼発電設備を所有する病院などのお客さまには震災後もガスを供給しつづけた

大震災、ガスが救った命
—非常時にガスコージェネが威力を発揮—

災害後、病院機能を維持
臨時手術室も実施

仙台LNG輸入基地 <設備>

口径500mm 延長約260km

平成24年1月1日 ガスエネルギー新聞

1. 電力会社からの本線・予備線の2系統ともに遮断し、停電
2. 救急患者は普段の2~3倍くらいに増えた
3. 断水はなかったが、食事やミルク・おむつを確保するのに苦労した
4. 非常用防災兼発電用ガスコージェネからの給電により、臨時手術2件を支障なく行うことができた

- エネルギーインフラ強靱性の向上とリダンダンシーを考慮したインフラ設備形成の必要性
- 電気と熱を含めたエネルギー全体の負荷の標準化とリスクマネジメントを踏まえたBCPの立案と実行

■具体的なエネルギー戦略

変化1

事業継続計画(BCP) エネルギー対策

停電シェルターエリア

- ・フロアの一部に設けられた、ジェネライトからの給電により停電の影響を受けないエリア
- ・空調や照明を確保し、停電時に利用者の避難所となる

奈良県コージェネ導入マップ

有事において事業を継続するために、重要なエネルギー負荷を選定し、その重要負荷への電気と熱を継続的に供給するBOS(停電時起動)コージェネレーションの導入加速

環境省「二酸化炭素排出制御対策補助金」
奈良県「災害対応医療施設整備事業補助金」の活用

変化2

エネルギー負荷の平準化・再生可能エネルギーとの融合

再生可能エネルギーとコージェネレーション・燃料電池など個別分散エネルギーシステムと融合したエネルギー負荷標準化・エネルギーベストミックス

変化3

面的エネルギー(電気・熱)融通した地域のスマートコミュニティ

「地域エネルギーシステム」モデル

凡例
 → : 電力供給
 → : 熱供給